

第3回アドバイザー・ボード会合の概要

「アドバイザー・ボード」の第3回会合の日時・出席者等については、以下に示すとおりである。

日 時：2005（平成17）年3月16日（水） 13時30分～16時00分

場 所：神戸大学六甲台本館3階大会議室

出席者：

アドバイザー・ボード委員（五十音順，敬称略）

江崎勝久，太田敏郎，片山松造（委員長），河内鏡太郎，土橋芳邦，

藤井俊一，栢田圭兒，領木新一郎

経営学研究科教員

桜井久勝，谷武幸，加護野忠男，石井淳藏，中野常男，水谷文俊，

忽那憲治

（今雪信雄，河津利恵子）

第3回会合では，片山委員長の挨拶ののち，研究科長（学部長）の桜井から，主として次の3点について報告が行われ，これらに関連して委員相互および研究科教員との間で，質疑応答と意見交換が行われた。

第1は，『オープン・アカデミズムの新時代』と題する自己評価・外部評価報告書第6号を刊行したことである。第2に，前回のアドバイザー・ボードで委員から提示された意見に対する研究科の対応状況について，次の事項を中心に報告が行われた。大阪中之島の経営教育センターでの平日夜間のMBAプログラムの順調な開講，イギリスのクランフィールド大学との間でのMBA講義の相互交換，および学部と大学院での英語による講義科目の新設などがそれである。第3に，国立大学法人化初年度の大学および研究科の動向に関して，管理運営体制の変化，予算配分への影響，学長選考などが説明された。

その後，第3回会合の最重要課題として，経営学研究科の改組計画（学部の夜間主コースを廃止し，そこから生じる教育資源を活用して，社会人MBAプログラムの学生定員の増加をはかること）について，研究科長による説明ののち，活発な意見交換が行われた。また，今回の議論を議事録として整理したうえで，改組計画に対する産業界からの意見として位置づけ，文部科学省への提出文書に含めることに関して，アドバイザー・ボードとしての了解を得た。